

審査結果報告書

平成30年2月9日

主査氏名 岩瀬 優美



副査氏名 田中 克俊



副査氏名 石井 正浩



副査氏名 深瀬 裕子



1. 申請者氏名 : DM13019 小笹 祥子

2. 論文テーマ :

Relationship between the experience of being a bully/victim and mental health in preadolescence and adolescence: a cross-sectional study

(前青年期と青年期の若者におけるいじめ経験と精神的健康の関連：横断研究)

3. 論文審査結果 :

本研究は、小学校5，6年生と中学生を対象に“いじめ被害経験といじめ加害経験”と精神的健康との関連について調べた質問紙調査である。800名以上の小学生と中学生を対象に実施しており、またいじめ被害経験だけでなく、いじめ加害経験をも要因に加えて検討した、意義のある研究である。

前青年期と青年期の若者の約4割から6割が、「いじめ」を経験しており、その頻度は高いことがわかった。具体的には、小学校5，6年生と中学生は、いじめ加害経験のみを経験している割合は低く、いじめ被害経験といじめ加害経験の両方を経験している割合が高いことが明らかになった。さらに、いじめ被害経験のみを経験している場合は内向的問題を、いじめ加害経験のみを経験している場合は外向的問題を、いじめ被害経験といじめ加害経験の両方を経験している場合には、内向的問題と外向的問題のいずれをも抱えることが示唆された。さらに、自殺念慮のリスクは、いじめ被害経験の場合と、いじめ被害経験といじめ加害経験の両方の場合に高くなっていた。青年期の女子においては、いじめの被害経験といじめの加害経験の両方を経験している場合、精神的健康に悪影響を与える可能性が示唆された。

審査会では、今回使用したいじめの内容、調査を行った学校の特徴、さらには、いじめの被害経験だけでなくいじめの加害経験に対する心理的ケアなどについて、活発に議論が行われた。

以上より、前青年期と青年期の若者におけるいじめ経験と精神的健康の関連について調べた本研究は、博士課程の学位論文にふさわしいと考えます。